

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

部活が終わったのは、六時を少し過ぎたころだった。バス停までは走って五分。最終の一本前のバスに間に合うかどうか、ギリギリの時間だ。
「先に行つて。」後ろから、拓真の声がした。振り返ると、拓真はまだ体育館の入り口で、靴ひもを結び直している。一年生の中でいちばん足がおそい。これで乗り遅れたら、次は四十分後の最終バスだ。
ぼくは走った。坂を下り、信号を渡り、バス停が見えたとき、ちょうどバスが入ってくるところだった。息を切らして乗りこみ、いちばん後ろの席に座る。窓の外に、坂の上から走ってくる拓真の姿が小さく見えた。まだ遠い。

運転手がドアを閉めようとした。ぼくは、口を開きかけて、閉じた。「待ってください」の一言が、のどの奥で止まった。バスは動き出した。窓の外で、拓真が立ち止まり、ひざに手をついた。

家に着いてから、ぼくは何度も、あの一言を言えなかった理由を考えた。運転手に声をかけるのが恥ずかしかった。ほかの乗客の目が気になった。どれも本音だったが、どれも言い訳だと分かっていった。

次の日、拓真は何も言わなかった。いつもと同じように、ぼくの隣で着替え、同じように練習をした。それが、かえって苦しかった。責められたほうが、まだ楽だったかもしれない。

帰り道、また六時を過ぎていた。拓真は今日も、靴ひもを結び直している。ぼくは、走り出さなかった。

「最終でいいや。」

そう言うと、拓真は顔を上げて、少し笑った。「おそいよ、おれ。」

「知ってる。」

二人で歩いた坂道は、走ったときより長かった。でも、バス停に着いたとき、ぼくの息は少しも切れていなかった。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「ぼくは、口を開きかけて、閉じた」とありますが、このとき「ぼく」が言おうとした言葉を、本文中から七字で抜き出さないさい。

待 っ て く だ さ い

問二 「どれも言い訳だと分かっていった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 恥ずかしさや人目のせいになっているが、本当は自分が拓真を見捨てたのだと感じている。

イ 運転手や乗客が悪いのに、自分が責められるのは不公平だと感じている。

ウ 拓真が足がおそいことから、置いていったのは仕方がないと納得している。

エ 理由が多すぎて、どれが本当なのか分からなくなっている。

ア

問三 「それが、かえって苦しかった」とありますが、「それ」が指す内容を、本文中から二十字以内で抜き出さないさい。

拓 真 は 何 も 言 わ な っ た

問四 「ぼくは、走り出さなかった」とありますが、このとき「ぼく」はどうすることに決めたのですか。前の日の出来事とつなげて、四十五字以内で説明しなさい。

に	、	前
決	最	の
め	終	日
た	バ	の
。	ス	よ
	に	う
	に	に
	っ	拓
	て	真
	も	を
	拓	置
	真	い
	と	て
	一	い
	緒	く
	に	の
	帰	で
	る	は
	こ	な
	と	く

問五 「ぼくの息は少しも切れていなかった」という最後の一文の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 走らなかつたので疲れていないという事実だけを書き、気持ちには触れていない。

イ 走って乗った前の日と比べることで、拓真と歩いた「ぼく」の心の落ち着きを表している。

ウ 二人の足がおそいことを、遠回しに批判している。

エ 最終バスに乗れなかったことへの後悔を表している。

イ

【中1】国語 文章問題 物語文 2 答えと解説

問一（二十点） 答え：待ってください

解説：直後の「『待ってください』の一言が、のどの奥で止まった」が根拠。言おうとして言えなかった言葉。

問二（二十点） 答え：ア

解説：「どれも本当だったが、どれも言い訳だと分かっていた」＝理由は本当でも、それで自分を許せない。ウのように納得しているなら「何度も考え」ない。

問三（二十点） 答え：拓真は何も言わなかった （いつもと同じように、ぼくの隣で着替え でも正解）

解説：直前の「次の日、拓真は何も言わなかった。いつもと同じように～」が根拠。責められないことが、かえって苦しい。

問四（二十点） 答えの例：前の日のように拓真を置いていくのではなく、最終バスになっても拓真と一緒に帰ることに決めた。

解説：直後の「最終でいいや」が根拠。前の日は走って先に乗り、拓真を置いていった。同じ場面で今度は走らないことで、行動の変化を表している。

採点のポイント：① 拓真を置いていかない（前の日と違うことをする） ② 最終バスになっても一緒に帰る（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点） 答え：イ

解説：前の日は「息を切らして乗りこみ」、この日は「息は少しも切れていなかった」。同じ言葉を対にして、気持ちの違いを表している。「でも」という接続語が、坂道の長さとの対比を作っている。